

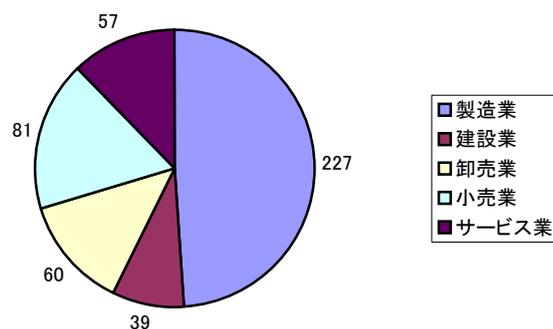
景気動向

業況はわずかに改善。
先行きも製造業で大幅に改善、非製造業でわずかに改善の見通し。

- 調査時点 平成21年10月調査(21年9月末時点)
- 対象企業 761社
- 回答企業 464社(回答率:61.0%)
(製造業227社、建設業39社、卸売業60社、
小売業81社、サービス業57社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	227
建設業	39
卸売業	60
小売業	81
サービス業	57



<全産業>

全産業の業況DI(▲64.6)は、前回(▲69.9)に比べて5.3ポイント改善した。
業種別では製造業の業況DIは▲73.6(前回▲78.9)となり、こちらも5.3ポイント改善した。
建設業、卸売業、サービス業の業況DIもわずかに改善を示しているが、小売業の業況DIは横ばいのまま推移している。
各業種からは、「依然として厳しい状況」「先行きが不透明である」との声が多くあった。
3か月先見通しは製造業の業況が大幅に改善、非製造業がわずかに改善を見通している。

■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
9月末時点	-64.6	-64.2	-61.4	-38.8
6月末時点	-69.9	-68.2	-66.2	-46.9
前回比	5.3	4.0	4.8	8.1

■全産業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	6.7	4.9
悪化	71.3	74.8
DI値	-64.6	-69.9
前回比	5.3	0.7

■9月末時点からみた

全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	8.2
悪化	41.2
DI値	-33.0

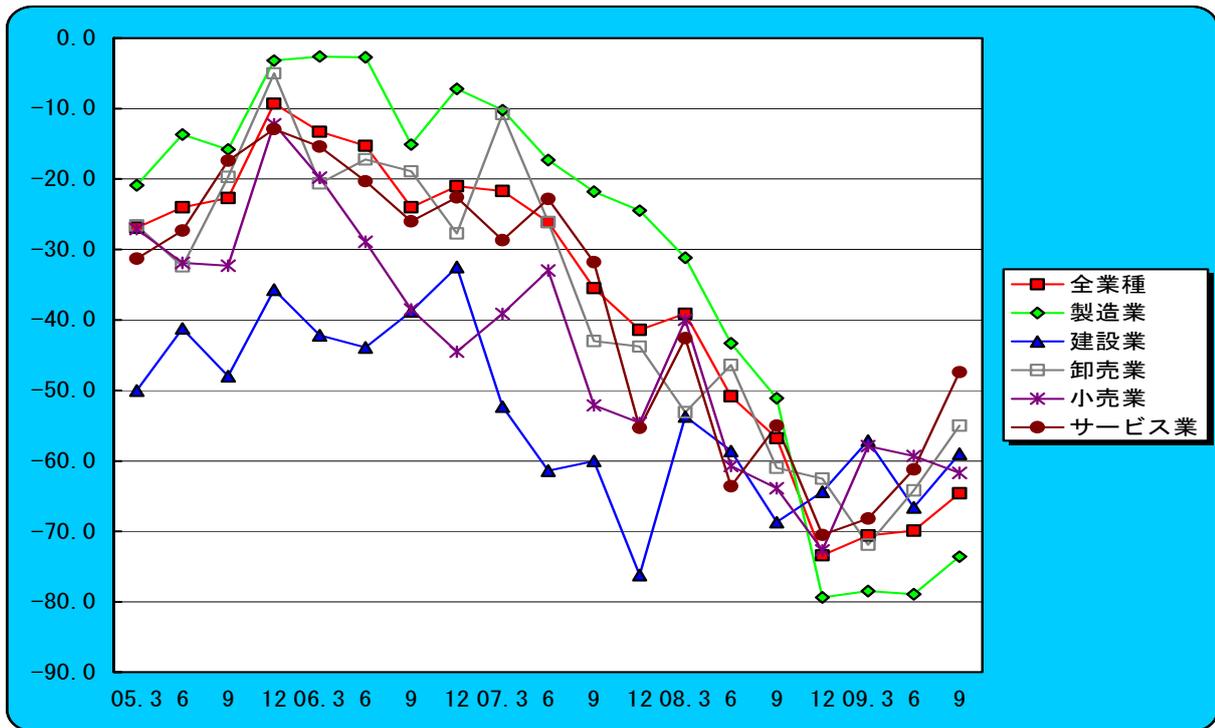
■製造業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	5.3	5.4
悪化	78.9	84.3
DI値	-73.6	-78.9
前回比	5.3	-0.4

■非製造業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	8.0	4.5
悪化	64.1	66.8
DI値	-56.1	-62.3
前回比	6.2	1.5

■業種別業況DI値推移グラフ



< 製造業 >

業況DI値	
今回	-73.6
先行き	-21.5
前回比	5.3

対象企業	341
回答企業	227

業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて、わずかに改善を示した。業種別にみると「プラスチック」の業況が改善を示し、「印刷」「電気機器」「輸送用機器」「精密機器」の業況はわずかに改善を示した。「織物」「ニット」「鉄鋼・非鉄」の業況は、わずかに悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上が大幅改善、採算・資金繰りが改善の見通しを示した。

業種別にみると「鉄鋼・非鉄」「金属」「一般機械」「電気機器」「輸送用機器」「精密機器」「漆器」の業況は大幅改善、「織物」「縫製」「木材・木製品」「印刷」「窯業・土石」「プラスチック」も改善、「食料品」「酒造」もわずかに改善を見通している。

3ヶ月先見通しは、ほとんどの業種で改善を見通しているが、一部に「受注の減少、単価の低下が続いている」との声もあった。

自由意見

製造業

- 「高速道路無料化」が実現されても、地方の中小企業は高速道路を利用することが少ないため、流通コストの削減には結びつきにくく、価格の引き下げも難しい。全国に販売網を持つ大手のみ有利である。【食料品】
- 梅雨明け宣言が無かった今夏は、大きく受注の減少となった。【食料品】
- 円高で採算割れ企業が増加している。また、ディスカウントの激しさが増し、メーカーは赤字が出やすい状況となっている。【食料品】
- 飲食店の売上不振により、受注が減少している。【酒造】
- 売上が対前年比79%に落ち込み、さらに取引先の業績悪化による回収不良が発生している。【窯業・土石】
- 円高により輸出が減少している。【織物】
- デパート専門店への客足の減少で、高級品の売上が落ち、メーカーからの注文も減少しており、最悪の状況です。今後も大幅な改善は望めない。【縫製】
- 先行き見通しに不安大。【印刷】
- 9月以降、先が見えてきません。【金属】
- 用紙・資材等仕入価格の高止まりと受注減とのサンドイッチ状態に陥っている。【印刷】
- 販売価格の安定と内需拡大の対策を早急に望む。【窯業・土石】
- 建設資材関連企業としては、見通しが立たず活路が見い出せない。現在は10年前の3分の1の売上げである。来年度はどの程度の落ち込みになるのか見えない。【窯業・土石】
- 出荷売上高の対前年比は70%である。受注残は昨年並み。【窯業・土石】
- ひどい状況です。昨年と比べて売り上げが1/3位です。もう限界が過ぎました。どうしようもありません【鉄鋼・非鉄】

○先が全然見えない。計画の立てようがなく、今後どうなるか見通しが立たない。	【鉄鋼・非鉄】
○4～5月時点と比較すると売上・収益共にやや良化はしているが、今後安定するか不安である。	【金属】
○もう限界である。国の政策に期待したい。	【金属】
○業界全体が悪いです。	【一般機械】
○建設業界では、受注減少に加えて、今まで大手ゼネコンが参入しなかった物件にも、大・中・小のゼネコンが全て入札に参加して、単価のたたきあいとなっており、下請業者にとって厳しい状況です。	【一般機械】
○先行きが不透明で不安である。	【一般機械】
○先行きが不透明であるのに加え、景気がアップしないので、受注も増えません。	【電気機器】
○景気が底打ちしたとよく聞かれるが、どこが底を打ったのか。状況はますます悪化している。見通しのつかないところで借り入れて返済に苦しむようなことはしたくない。	【電気機器】
○先行き不透明感が強い。	【電気機器】
○各得意先では、回復は次年度(4月)以降とみている。	【輸送用機器】
○仕事量が半減して一年近く経過するが、良化の状況が未だに見えて来ない。過剰の従業員を雇用する余裕はなく、適正な人数まで削減することに決めた。	【精密機器】
○インフルエンザ対策で在庫を増やしている。借入金の借換による月々の返済額の減額や、経費の削減に努め現在資金繰りは改善されている。	【精密機器】
○下期にかけて急激に売上・利益が上がると思われる。	【プラスチック】
○先が見えない。	【プラスチック】
○景気が底を脱したような報道がされていますが、実体は改善されておらず、受注の減少、単価の低下が続いている。	【プラスチック】
○全てにおいて受注量が落ちている。	【プラスチック】

<建設業>

業況DI値	
今回	-59.0
先行き	-54.8
前回比	-9.5

対象企業	67
回答企業	39

業況・売上はわずかに改善を示し、採算・資金繰りは改善を示した。業種別業況をみると「土木」は横ばい、「建築」はわずかに改善を示した。3か月先見通しの業況・売上はわずかに改善を見通しており、採算・資金繰りはわずかに悪化を見通している。業種別にみると、売上で「土木」の改善の見通しに対し「建築」ではわずかに改善、採算で「土木」のわずかに悪化に対し「建築」では横ばい、といった違いが見られる。「依然として先行きが不透明である」との声があった。

自由意見

建設業

○依然として先行きが不透明である。	【土木】
○建設業界の先行きは不透明。	【建築】

<卸売業>

業況DI値	
今回	-55.0
先行き	-38.4
前回比	9.2

対象企業	98
回答企業	60

業況・売上・資金繰りはわずかに改善を示し、採算は横ばいを示した。業種別にみると「飲食料」は売上・資金繰りで改善傾向を示した。「鮮魚」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を示した。「青果物」は業況・資金繰りが改善を示したが、採算は悪化を示した。「機械器具」「建築材料」の業況・売上・採算はともに改善傾向を示した。3か月先見通しの売上は改善を見通し、業況・採算もわずかに改善を見通している。業種別にみると「衣服」「飲食料」「青果物」「機械器具」「建築材料」の業況・売上ともに改善傾向を見通している。「鮮魚」の採算は悪化、「衣服」の資金繰りもわずかに悪化を見通している。「客数及び1社当たりの売上が減少している」という声があった。

自由意見

卸売業

○前年時点で悪化しているので、状況は最悪です。	【衣服】
○2～3月以降、大幅に受注減。	【衣服】
○客数及び1社当たりの売上が減少している。	【建築材料】

○住宅着工減、木材流通量減という状況のなか、今後は国産材の利用促進を効率よく出来るかが課題である。
今年秋の需要は期待薄である。

【建築材料】

○全国的に小売業(大型店を除く)が減少し、自社商品の取扱店が急激に減少している。大型店規制緩和の影響ではないか。

【その他】

<小売業>

業況DI値	
今回	-61.7
先行き	-51.9
前回比	-2.4

業況・採算・資金繰りは横ばいを示しているが、売上はわずかに悪化を示した。業種別にみると「大規模店」の業況は改善、「中小スーパー」「家電品」「自動車販売」の業況もわずかに改善を示したが、「衣料」「飲食料」「家具・建具」の業況はわずかに悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算はわずかに改善を、また、資金繰りは横ばいを見通している。

対象企業	153
回答企業	81

業種別にみると「自動車販売」の業況・売上・採算は改善を見通し、「飲食料」「大規模店」の業況も改善、「衣料」の業況はわずかに改善を見通している。「中小スーパー」の業況・売上・資金繰りは悪化傾向を見通している。

「非常に厳しい状況です」という声がある一方で、一部業界では「エコポイント制度があるのでまだ良いのではないか」という声もあった。

自由意見

小売業

- 売上もどんどん下がり、最悪の状態です。【中小スーパー】
- 非常に厳しい状況です。【衣料】
- この不景気に次々と郊外店が出店してくることに困惑している。【衣料】
- とにかく悪い。年内はこのままの状況が続くのか。【衣料】
- 7月に市内に大型店がオープンした影響が出ている。【飲食料】
- 将来的な不安材料が多いため、資金の借入れも不安である。(返済の見通しが立たない。)【家電品】
- この先の経営の見通しが立たないので、とても不安です。【飲食料】
- 購入客が余裕のある層だけという感じである。【家電品】
- 仕入れは安くなったが、客単価が下がりすぎている。しかし、家電業界はエコポイント制度があるのでまだ良いのではないか。また、新型インフルエンザ対策などにより新たな製品が売れる可能性もある。とにかく自社努力で頑張っていきたい。【家電品】

<サービス業>

業況DI値	
今回	-47.4
先行き	-35.1
前回比	13.8

業況・採算はわずかに改善を示し、売上・資金繰りは横ばいを示した。業種別にみると「観光旅館」の業況・採算・資金繰りは改善傾向を示したが、「自動車整備」は採算・資金繰りが悪化を示した。「タクシー」「運送」の業況・採算は改善傾向を示し、「情報サービス」は業況・売上で改善を示し、採算は横ばい、資金繰りではわずかに改善を示した。

3か月先見通しの業況・売上・採算・はいずれもわずかに改善を見通し、資金繰りは横ばいを見通している。

業種別にみると「タクシー」は業況・売上・採算・資金繰りのいずれも改善傾向を見通している。「運送」「自動車整備」も業況・売上・採算で改善傾向を見通し、「情報サービス」も採算で改善を見通している。

全体的に改善傾向にあるが、「資金繰りにも厳しさが増えています」「先行きが不透明である」という声もあった。

自由意見

サービス業

- 地域の中で一店舗の寡占化が進むと、地域が疲弊する。【旅館・ホテル】
- 今年に入り売り上げが前年比10%以上落ち込み、資金繰りにも厳しさが増えています。9月も同様で、この状
がいつまで続くのか知りたいです。【タクシー】
- 先行き不透明である。【運送】
- 原油が上昇傾向にあり、先行き不安である。また、最低賃金の上昇等の負担増の可能性があり、先が見えない。【自動車整備】
- 先が読めない。【自動車整備】
- 低コストの提案が出来ない企業は将来性ゼロ。【情報サービス】